

# ART KISS LETTER

vol.56

FREE

[アート・キッスレター]

FOR KUMAMOTO ART PEOPLE  
Contemporary Art Museum, Kumamoto

熊本市現代美術館発行 <http://www.camk.or.jp>

SPRING  
[2012.春号]



第23回熊本市長美術展 熊本アートパレード 作品審査中の鶴田一郎さん



2月15日～3月11日まで、当館フリースペースで「特別展示:鶴田一郎展」を開催

## 第23回熊本市長美術展 熊本アートパレード

2012.2.25-3.11

今年は熊本出身のアーティスト鶴田一郎さんを審査員に迎えました。「越える あなたは何を越えたいですか?」のテーマのもと325点が出品され、賑わいのある展覧会となりました。また会期にあわせて、フリースペースに鶴田一郎さんの作品11点を紹介する特別展示を行いました。(Y.H)

## 巻頭言 「クール・ジャパン 熊本・クール」

熊本市現代美術館館長 桜井武

「クール・ジャパン」の「クール」は、「洗練された」とか「かっこいい」を意味する。経済産業省内にはクール・ジャパン室が設置されており、伝統と現代の融合が生み出す日本のすぐれた産業を海外に発信しようとしている。ここでいう産業は、コンテンツ産業を指し、主として漫画、アニメ、コンピュータゲームなどが含まれる。一方、文化庁はメディア芸術祭を開催し、この分野の振興に努めている。コンテンツ産業とかメディア・アートは、日本の得意分野であり、国際的競争力も強く、その評価は世界でも抜きん出ている。しかしこのところ状況は一変。たとえば韓国の躍進が目覚ましく、昨年の韓流ドラマや韓国ミュージシャンの海外公演などの総収入は800億円を超えたようだ。日本にとっては脅威であり、関係機関は危機感をつのらせている。

さて、この「クール・ジャパン」の由来は、経済発展と新しい文化に沸き立った1990年代の「クール・ブリタニア」と呼ばれた英国にある。理論的支柱となったのは、ケンブリッジ大学出身のマーク・レナードが書いた報告書「登録商標ブリテン」であった。彼は、政治・経済・文化の新しいコンセプトを生み出すには、文化産業を活発にして新鮮な文化を世界に発信し、国のイメージを一新すべきだと主張。注目すべきは、若干23歳のレナードの報告書を当時のブレア政権が政策に取り入れたこと。そして国家や都市の新しいアイデンティティーと価値が生み出されたことである。

国が本当にかっこよくなるには、首都圏だけでなく、むしろ国を構成する地方が強くなるのが必須だ。私たち熊本がさらに強力で魅力を増すには、アイデンティティーを再構築し、地域全体の潜在する美点や力を総合的に探ることだろう。街の中心に位置し、音楽が鳴り、ダンスが踊られ、朗読会が開かれる熊本市現代美術館が、洗練され、かっこいい熊本「熊本・クール」の拠点になる可能性は大である。



## 命の花壇の植え替えを行いました

2011.12.6

熊本県立熊本養護学校農芸班のみなさんと、命の花壇植え替えを行いました。今回は、葉ボタンやピオラといった冬の花が中心です。寒さの中、元気いっぱい作業に励んでくれたメンバーが大切に育ててくれたお花をどうぞお楽しみください。(A.S)

【参加人数：20人】



ミュージック・ウェーブNo.054 福岡アメリカンセンター協働事業

## ジェーン・リグラールコンサート「フルートとコンピューターが奏でる冬のハーモニー」

2011.12.16

福岡アメリカンセンターとの協働事業で、アメリカ在住のフルート奏者、ジェーン・リグラールさんによるコンサートを開催しました。リグラールさんはコンピューターを用いたフルートの新しい奏法に取り組み、音楽家、作曲家としても国際的に活躍されています。今回のコンサートでも、両者を融合させた音の世界で会場を魅了しました。残響のような音の重なりが、ささやき声のように聞こえる音の効果は不思議な感覚をもたらし、おなじみのクリスマスシーズンの曲も、リグラールさんの演奏では全く新鮮なものになります。当館をイメージして即興で演奏して下さった曲も実験的で興味深く、美術館でしか決して体感することのできない大変貴重な機会となりました。(M.O)

【参加人数：80人】



## CAMK「読みがたり」

### 第26回 テーマ：「みのりの秋」

2011.10.15

絵本は『やさいさん』をはじめ、『ざぼんじいさんの柿の木』、「くっさあ〜い!」の読み手の声に思わず笑ってしまう『さつまのおいも』をご紹介します。他にも、スピードをどんどん上げていくため、遅れないよう一生懸命に手を動かす手遊び歌で会場が熱気につつまれました。お話し会の最後にはマツボックリをプレゼント。ひだひだの長細いマツボックリを子どもたちが嬉しそうに手にとっていました。(C.T)

【参加人数：37人】



### 第27回 テーマ：「読書の秋」

2011.11.19

体を温める手遊びうた「のぼるよコアラ」では、「のぼるよ♪のぼるよ♪コアラ〜ら〜♪」の歌に合わせて体を大きく動かし、楽しくエアーム登りのまねをしました。また、CAMK「読みがたり」では初のセット絵本「ぼくのおべんとう」「わたしのおべんとう」では、男の子と女の子と一緒に食べているお弁当の中身を見ながらお話しを聞きました。交互におかずを食べていく展開に、思わずお腹を押さえた腹ペコのお友達もいました。締めくくりは「おるよコアラ」でした。(C.T)

【参加人数：14人】



### 第28回 テーマ：「冬のおくりもの」

2011.12.17

サンタクロース、キラキラと輝くツリー、トナカイのコスチュームで子どもたちをお出迎えしました。サンタと雪の子どもたちが、シャラシャラと優しく鈴の音を鳴らしながら世界中の子どもたちへクリスマスを届ける手袋人形のパフォーマンスに、子どもたちもうっとり。幼いお友達がやや多めでしたが、紙芝居『よいしょよいしょ』では元気いっぱいに「よいしょ！よいしょー！」と大きな声を聞かせてくれました。(C.T)

【参加人数：19人】



## 第50回CAMKEES全体茶話会

2011.12.17

2011年最後となる美術館ボランティア・CAMKEESの皆さんとの全体茶話会を行いました。来年はCAMK開館10周年！ということで、夏には、CAMKEESの皆さんと一緒に「CAMKEES祭り」を2日にわたって開催します。見る、聞く、描く、体を動かすイベントが盛りだくさんなので、楽しみにしてくださいね！その「CAMKEES祭り」の各班の進捗状況について確認をしました。その後は、資料整理ボランティアさんが幹事をする新年会について告知、布絵本ボランティアさんが完成させた布絵本『ひよこひよこ』のお披露目と楽しいお知らせが続きます。最後には、今年1年をCAMKEESの皆さんに漢字1文字で振り返っていただきました。(A.A)

【参加人数：28人】



## CAMKレクチャーカレッジ「包丁と愛情、西原理恵子における女性の描写」

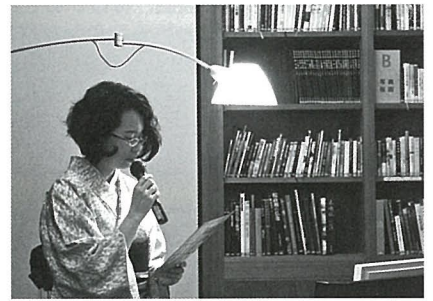
2011.12.18

バラハク展CAMKレクチャーカレッジとして、「包丁と愛情、西原理恵子における女性の描写」を富澤治子(展覧会企画学芸員)が講演しました。

「ちくる幼稚園」、「ゆんぼくん」、「ぼくんち」女の子のものがたり、「パーマントのばら」を通じて描写される包丁を持つ女性たちに注目し、その小道具が何を示したか、何を象徴したか、そして包丁を持つ女性という表現においてどのような展開と成熟が達成されたかについての考察を発表しました。バリエーションとして「ぼくんち」に現れる包丁を持つ男性にも触れました。

引用の際に、マンガ作品のセリフを音読するとき、そのスピードが加速するようリズムの良さや発語のしやすさに、講演をしながらひとり感動したのは、また新たな魅力の発見でもありました。(H.T)

【参加人数：80人】



ミュージック・ウェーブNo.055

## CAMKピアノコンサートvol.11

2011.12.23

当館ピアノボランティアによる恒例のピアノコンサートを開催しました。今回は「西原理恵子博覧会」バラハクにちなんで、「家族」をテーマにピアニストのみなさんに選曲していただきました。選曲のエピソードでは、「赤ちゃんがお腹にいる時によく聴いていた曲」や「来年から進学で熊本を離れるので感謝の気持ちをこめてお母さんに送りたい」などさまざまな家族への想いが語られました。コンサートの最後では、来場者のみなさんと一緒に「きよしこの夜」を歌い、ファミリークリスマスのような、心あたたまるコンサートとなりました。(M.O)

【参加人数：80人】



## お話し玉手箱LIVE

### 第14回

2011.12.24

RKKアナウンサー本田史郎・福島絵美さんによる文学作品の朗読会が14回目を迎えました。軽快な川端誠の落語絵本「いちがんこく」では、本田さんの「おじさん」というセリフの声音が楽しかったという感想が寄せられました。新美南吉「手袋を買いに」では、雪もちらついたこの日に冬の寒さと母のあったかさを感じさせる福島さんの優しい語り引き込まれていきました。

そしてクリスマス・イブのこの日にぴったりのオー・ヘンリー「賢者の贈り物」。お二人の語りと嶽道明俊さんのピアノによるクリスマスのメロディーで、「素敵な時間をすごせました」と皆さんが笑顔で帰られました。(Y.H)

【参加人数：70人】



### 第15回

2012.2.11

RKKアナウンサー本田史郎・福島絵美さんによる15回目となる文学作品の朗読会が開催されました。

今回は、熊本の菊池地方に伝わるむかし話の「ぼんさらや」と、『源氏物語』(瀬戸内寂聴訳)の「桐壺」「夕顔」の二演目でした。熊本版シンデレラ「ぼんさらや」は軽快なテンポで楽しませていただきました。

また、『源氏物語』にあわせた福島さんの雅な着物姿とともに、異世界に浸った贅沢なひとときでしたとの感想が寄せられました。今回はテレビで告知をしたためか、初めて聴きにいらした方の割合が多かったようです。(Y.H)

【参加人数：85人】



## 開館10周年お正月福引

2012.1.4

今年最初の仕事始めとして、「開館10周年記念 お正月福引」を、10時から19時半まで開催しました。賞品は、バラハク展覧会招待券を特賞として、近年の展覧会カタログ、ポスター、熊本市特製グッズなど。全員参加無料で空クジなしということで、新春はじめの運試しで、展覧会を御覧に来館された方が、招待券を当てるなど運の良い方もいらっしゃいました。(H.T)

【参加人数：552人】



## 志摩和生講演会「バトル・オブ・毎日かあさん」

2012.1.8

毎日新聞記者で、「毎日かあさん」担当編集者の志摩和生さんによる講演会「バトル・オブ・毎日かあさん」を開催しました。西原理恵子先生とは20年を超えるおつきあいでもあり、毎日新聞の連載マンガ「毎日かあさん」連載10周年を記念して、編集者としての歴史とその時々への想いについて初めて語っていただきました。「怒涛の虫」連載の際の裏話、「毎日かあさん」連載のなかでの、編集者と漫画家の間での漫画が紙面に掲載するまでのやりとりで行われるひそかなバトルなど、詳しくお話しくださしました。「西原さんとは、よくケンカします」とにこやかに語るその姿に、西原先生とその作品への深い愛を感じました。会場のお客さまも熱心な読者の方が多かったようで、非常に興味深い質問が挙げられるなど、長期連載の新聞マンガが抱える様々な問題について考える場面も発生しました。(H.T)

【参加人数：80人】



## アニメ「毎日かあさん」&くまモン握手+撮影会

2012.1.8

志摩和生さんの講演会「バトル・オブ・毎日かあさん」の応援に、アニメ「毎日かあさん」のかあさんが来てくれました。講演会開催前に応援のアピール、講演会終了後に握手+撮影会を開催しました。かあさんが来るということで、くまモンが「西原理恵子博覧会 バラハク」をかあさんに案内するため、当館に遊びにきてくれました。

会場最後の撮影ゾーンでは、くまモンとかあさんと一緒に、みなさん、とびきりの笑顔での撮影でした。(H.T)

【参加人数：120人】



## 新春・健康マージャン in 熊本市現代美術館

2012.1.9

「西原理恵子博覧会 バラハク」関連イベントとして、「新春・健康マージャン in 熊本市現代美術館」を開催しました。

バラハク会場内では、西原先生の名作のひとつ『まあじゃんほうろうき』の原画や資料、ゲームなどを展示しています。この作品は、マージャンをするところに現れる人間の本性やその人間関係の描写、マージャンというゲームの奥の深さをユーモアたっぷりにあまざる描いたものです。

当館で健康マージャンを開催するにいたった理由としては、西原先生が描いたマージャンを通じての人間の交流の場を、ほんの一片でも、実体験として体験していただきたいという思いからでした。健康マージャンが昨年、ねりんピック熊本大会で正式種目となったことも大きな後押しとなりました。今回は、熊本健康マージャン協会の協力を得、一般申し込みの定員制で、初心者24名、経験者56名、キャンセル待ちもいただくほどの人気で、会を開催することができました。

初心者の方は、協会スタッフの丁寧な指導のもと、マージャンを牌の読み方から学び、ゲームの楽しみを体験され、時には拍手も沸いていました。経験者の方はリーグ戦を行い、集中してゲームを行っていました。優勝者は新名イツ子さんでした。本当におめでとうございました。

【参加人数：80人】



## 2012年CAMKEES新年会

2012.1.12

2012年、CAMKEES&CAMKスタッフによる新年会を開催しました！今年の参加者は、CAMKEES37名とCAMKスタッフ15名です。50名を超える賑やかな会となりました。日ごろのボランティア活動では、なかなか接することが少ない館長をはじめ、総務職員なども加わり、親睦を深め、今年の新しいスタートを切ることができました。今年は開館10周年、これまで支えてくださったCAMKEESの皆さんと一緒に創造力豊かな活動を続けていきたいとCAMKスタッフ一同、決意を新たにしました。(A.A)



熊本県出身の若手現代美術作家、青木豊(1985-)さんの個展を開催いたしました。青木さんは絵画を基本に、絵画の平面性そのものを解体し、物体化させた作品や、身の周りにあるものを素材にした立体作品を制作しています。今回は新作を含めた平面と立体の作品16点をギャラリーⅢとエントランスに設置しました。

青木さんの作品は、表面のみを鑑賞する傾向にある絵画の構成要素に着目し、正面からではなく様々な角度から作品を見ることで、作品の新たな側面を発見したり、作品に独特の質感を与えることで存在感を引き立てたりするような表現を行っています。また、あくまで絵画に主軸をおきながら、平面と立体と組み合わせて、空間そのものを創り上げていくインスタレーションの手法も青木さんの特質の一つでしょう。一見バラバラに見える作品たちが同じ空間に配置され、有機的につながることで、新しい風景が浮かび上がってきます。会場では入場者の方々がギャラリーを回遊しながら、多様な色と形が響き合う青木さんの作品世界に浸っていらっしゃる姿が印象的でした。また、本展の展示設営では、熊本県立第二高等学校美術科2年生4名の方にご協力をいただきました。今回の作業を通して、作家の展覧会への取り組み方、美術館の裏側を知っていただき、さらに美術への関心を深めていただけたなら、これほど嬉しいことはありません！どうもありがとうございました。(A.A)



### トーク・セッション

青木豊(本展作家)× 弘孝昌(熊本県立第二高等学校美術科教諭)

2012.1.28

本展作家の青木さんと、青木さんの高校時代の恩師であり、現在、熊本県立第二高等学校美術科教諭である弘孝昌氏をお招きして、青木さんの作品、そして、美術教育、現在のアートシーンについてお話いただきました。

青木さんの伸び伸びとした大津高校時代、大学時代の挫折と自分の表現の模索といった作家の作品表現の萌芽から、表現者も自分の想いを言葉に変換する必要があるという弘先生の見解、多様な表現メディアの登場と目まぐるしいスピードで変化する社会のなかでの美術教育のあり方など、多岐にわたるトークが展開されました。(A.A)

【参加人数：100人】



### 作家によるギャラリー・トーク

2012.1.28

セッション終了後は、会場をギャラリーⅢに移して、実際に作品を前にして青木さんにお話いただきました。今回のテーマである「外の部屋、中の庭」を意識した作品配置や展示方法をはじめ、下地作りへのこだわり、角度によって変わる作品の見え方、表現メディアに対する考え方を丁寧に話される姿が印象的でした。(A.A)

【参加人数：50人】



### 詩の朗読会 第98回

2012.1.26

テーマは「愛(きずな・縁・家族)」。現在開催中の「西原理恵子博覧会 バラハク」にちなんでの設定でした。今回は16名の方が詩作を発表されました。

すでに逝去された家族や、新しい家族との生活を謳う作品、神への愛、兄弟愛、家族愛についての考察など、一言に「家族」としても、「愛」としても、それぞれの全く異なる表情が浮かび上がってくるのが印象的でした。

ほんのりと心が温まったのは、独り身のクリスマス、そりに乗って現れた友人と出かけ歌った「愛の賛歌」で特別賞というプレゼントをもらったという内容の作品でした。(H.T)

### プレママ&ファミリーツアー

2012.1.28

「バラハク」展のプレママ&ファミリーツアーを実施しました。西原理恵子さんの作品は、『毎日かあさん』をはじめとして、子育て中のお父さん、お母さんに見ていただきたい作品ばかり。参加いただいた皆さんからも、「ああ、あるある」と深い頷きが随所から聞こえていました。ツアーの時間が終わってもお父さんにしばし子どもさんを預けて観覧するお母さんの姿も、「久しぶりにリフレッシュして、また子育てしていく元気がもられました」と素敵な笑顔がでていたのが印象的でした。(A.S)

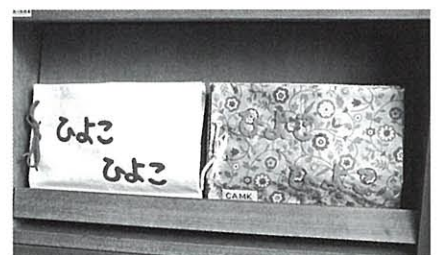
【参加人数：8人】



### CAMKEES 布絵本ボランティアによる布絵本「ひよこひよこ」完成!

2011.12.26

当館の布絵本ボランティアさんの手作り布絵本の第2弾をキッズサロンに設置しました。タイトルは「ひよこひよこ」です。ニワトリ母さんが好奇心旺盛なひよこたちを探して犬さん猫ちゃん長靴さんなど、さまざまな登場人物を訪ねていくストーリー。単に布地に絵を描いたり貼りつけたりするのではなく、こどもたちがパーツを手にとりながらスナップやマジックテープを使って動かして遊べることや、時には優しく、時にはビビットな色遣いや質感の異なる素材でさわ心地を考慮して、およそ一年がかりで作っていただきました。女子力満載のフリフリページもありますよ。また、ひと針ひと針、丁寧に縫い上げられた文字刺繍にもご注目ください。こどもたちの笑顔を思い浮かべながら作られた愛情たっぷりの布絵本です。(C.T)



# ART de Gyan!

[アート・ド・ギャン]  
熊本弁で「アート、どう?」の意です

[展評]



## 第52回 熊日書道展

2012.1.5 ~ 1.9 熊本県立美術館本館  
熊本県熊本市千葉城町 096-351-8411

熊日書道展は、県下で最高、最大の書道公募展である。今回も、5部門で440点の応募があり、205点の入選、入賞者と、委嘱、無鑑査作家70人の作品が展示された。グランプリの熊日賞には尾方千晶さん(64)の「母恋し」が選ばれた。作品は文字の流れや、大小に潤濁の変化も工夫され、余白もうまくとり、よくまとめていた。県賞には「万葉歌五首」の漢字で野田貴暎さん。淡墨で工夫された素朴な味のある線が美しく見られた。熊本市賞には「千曲川旅情のうた」の近代詩文で、吉田旭暉さんだった。のびやかで自由な筆づかいが静かな気分の感じられる作品となっていた。会場は今年も新鮮な作品や力強い線質の大字書、よく努力のあとが見られる多字数の漢字など、多彩で迫りに満ちており参観者も多かった。(S.K)



## 音のない青の世界~デフアート(ろう者の芸術)~ PART II

2012.1.17 ~ 1.29 崇城大学ギャラリー  
熊本市花畑町10番25号 096-323-1158

2010年に引き続きデフアートの展覧会が崇城大学ギャラリーで開催。青以外の色では描かれないのか乗富さんに筆談でお尋ねしたところ、「心の中ではこのような風景なので今のところ他の色は思い浮かばない。」という返事のあと、「健聴者も海にもぐれば手話が必要になりますね」という言葉にこの青色に込められた深い意味を感じることができた。メッセージ性が強い分、違う素材、色の表現によって観る人にまた違ったアプローチができるのではないかなと思われた展覧会だった。(E.Z)



## 第三回NAU熊本推薦作家展

2012.1.17 ~ 1.22 熊本県立美術館 分館  
熊本市二の丸2番 096-352-2111

若手作家からベテランまでの幅広い16名の作家が1~3点出品し、油彩を中心とした35点によって構成された展覧会であった。松下佐代さんの作品《日々 I》、《日々 II》では、均一な色面の上の連続した線の部分と、滲みのような柔らかで深い色彩の構成がダイナミックであり、連作を並置することによって、静と揺らぎの展開をより一層楽しむことができた。富田耕平さんも同様に《旅生'11 III》などの連作を発表していたが、激しい筆のタッチや、比較的絞られた色彩、造形的統一感によって完成された作品は、日々の営みとして、自分を客観的に見つめ、時に我を忘れ、キャンパスにむかうというプロセスとそのエネルギーを確かに感じさせるものであった。また、本展は個人的な作家の力が並んでいたが、展示空間全体としてバランスよく充実した構成であった。(Y.H)



## 松井宣澄社中展(時代に生きて彩々)

2012.2.3 ~ 2.6 県民百貨店8階  
熊本市桜町3-22 096-322-1111

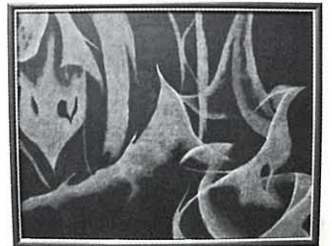
いけばな池坊550年祭を記念して松井宣澄社中展が開催。前期・後期合わせて78人によるいけばなに加え、4才から中学2年生までの子どもたちによるスイートピーやガーベラなど春の花材をメインに可愛らしい小品が54席ならんでいた。伝統的な作品から現代的なものまで幅広い生け方が魅力的であった。小中学生による「礼式生け」の発表もあり、先人たちの長い歴史を受け継ぐ若い世代に触れることのできる展覧会であった。(C.T)



## 第64回陽美展・第23回大津高校美術コース卒業制作展

2012.2.7 ~ 2.19 熊本県立美術館 分館  
熊本市二の丸2番 096-352-2111

大津高校美術コースの3年生による卒業制作と、在学生・OB/OG・教員による出品。在学1年生はこれからの飛躍が楽しみである。2年生のデザイン作品は総じてレベルが高い印象を受けた。様々な賞も受賞している。卒業制作作品は、川上愛奈さんの抽象画《蒼》《焰》と、田崎孔土さんのマンガ《Running High》が眼を引いた。どちらも若さあふれる荒削りだが、他者に見せるという点を熟考したうえで、自分の身体感覚を活かして制作している姿勢が見えた。これからも若さの勢いに任せて制作に励んでいただきたい。(H.T)



## 城下町を彩る華道展~くまもとの工芸に親しむ~

2012.2.7 ~ 2.11 熊本県伝統工芸館  
熊本市千葉城町3-35 096-324-4930

熊本県伝統工芸館のエントランスに日頃から季節の花々で彩りを添えてきた10流派による華道展。本展の魅力は、伝統工芸館所蔵の陶磁器や木工、竹籠等々の工芸品を使っているところ。熊本を代表する天草陶磁や小代焼には、阿蘇の自然を思わせる野草を使った作品や、「立華」、「盛花」など伝統的な美しい構成の作品で幅広くみせていた。また鳥を囲う大籠にアマリリスやバラなど洋花を巧みに組み合わせたストーリー性のある大作。そして玩具「おぼけの金太」には椿をふんだんに使い、金太の強烈な個性が際立つような演出がされていた。花をとおして、工芸品の新たな展開を見出すことのできる興味深い展覧会であった。(M.O)



# ホームギャラリーからのお便りvol.10

## LETTER FROM HOME GALLERY

ホームギャラリーからおすすめの1冊をご紹介します。

### 「パパ、美術館へ行こう(1)九州・瀬戸内海編」

結城昌子+体験文化研究会 編・著 小池書院 1997年

九州・瀬戸内海周辺的美術館7館と、そこで出会える名画を楽しく紹介した親子で文化を旅するシリーズの第1巻。いつもは仕事で忙しいお父さんと、夜眠りにつく前に一緒に本を開けばいろんな美術館に行ける。本には作品が大きく載せられ、こどもに語りかけるように絵を読み解くヒントが記されている。また、大人向けに作家の略歴や時代背景について書かれているため、なんの知識がなくとも仮解説人となった大人がこどもと一緒にアートへの理解や知識を深めることができる。さらに、美術館への交通手段や開館時間、駐車場、レストラン・喫茶、こども美術教室まで細かに掲載されており、その気になれば現地に赴くことができる点が素晴らしい。解り易い言葉の数々に、もしかすると「美術はわからんもんね」と思っていた大人の方が、名画にはまってしまってもかもしれませんよ。(C.T)



## VISITOR'S LETTER

【来館者のみなさんからのメッセージ】  
アンケートに寄せられた感想(抜粋)を紹介します。

### 西原理恵子博覧会 バラハク

- 西原さんのバイタリティあふれる生き方に衝撃のようなものを受けました。また元気をもらいました。夫を大事にします。(熊本市、60代、女性)
- 自身が子育て中に「あるあるこんな事!」と思いながら息抜きに笑いながら読んでいた作品がありなつかしく楽しく拝見しました。(熊本市、30代、女性)
- 愛は奥が深いなと思いました。そんな人に私も早く出逢いたい。(熊本市、30代、女性)
- 西原理恵子さんの人となり今までより深く理解出来た。いつまでもよい作品を書き続けて欲しいです。(熊本市、60代、女性)
- 自分の思いを大切にされた女性の生き方に感動。(熊本県内、70代、男性)
- 全てを笑いに変えつつも物事の本質を突いている作品だと思います。(熊本県内、30代、男性)
- 毎日かあさん、子どもを産んでから自分の見方が変わっているのに気がきました。涙が出そうになることは前はありませんでした。(熊本市、30代、女性)

## 編集後記

関連イベントにあわせてくまモンが2度も来館した「バラハク」も無事故で閉幕。今年度GIII最後の企画展として、熊本在住の洋画家、熊谷有展さんの個展を企画しました。個展の会期中2度行われる崇城大学熊谷研究室の学生さんと協働で行うワークショップの準備に、学生に主体性を持たせながら取り組む姿を見て、教育のあるべき姿の一例を見た気がしました。このワークショップは、当館をハブにして、大学教育の現場を社会の現場で実行・交流するというダイナミックな側面を持つものです。どんな場となるのか、今から楽しみです。

編集長 富澤治子

本号が私にとって最後の編集後記執筆となりました。2008年から約4年間、アートを通じて多くの出会いがありました。中でもサイトットクマモトのコーナーでは熊本の次世代文化を担う文化人の方々インタビューさせていただき、それぞれの仕事を通して、もっとおもしろい、魅力的な熊本にしようと取り組む生の声を聞く事ができました。それが少しずつ形となり美術館とつながる度に胸が熱くなったものです。「文化」という言葉にはあらゆる境界線を越えてつながる力があると思います。まちなかにあるこの美術館にもそんな無限の可能性を感じています。このアートキッスレターを读者のみなさんが手に取る時、足元から広がっていく世界を感じていただけますように、CAMKとつながれますように祈っています。

担当 大岩みゆき

- 発行元/ART KISS LETTER アート・キッス・レター Vol.56 2012年3月発行(春号) ©無料
- 発行人/桜井 武 編集/富澤治子、大岩みゆき
- デザイン/(有)松永 壮デザイン事務所 ●印刷/シモダ印刷
- 発行/熊本市現代美術館 〒860-0845熊本市上通町2-3 TEL.096-278-7500 FAX.096-359-7892

●執筆者一覧  
\*ギャラリー取材原稿の文末にイニシャルにて記載しております。

- 兼城昌山  
Syozan Kaneshiro (書道家)
- 森山淡草  
Tanso Moriyama (書道家)
- 本田代志子  
Yoshiko Honda (熊本市現代美術館主任学芸員)
- 藏座江美  
Emi Zoza (熊本市現代美術館主任学芸員)
- 富澤治子  
Haruko Tomisawa (熊本市現代美術館主任学芸員)
- 坂本顕子  
Akiko Sakamoto (熊本市現代美術館主任学芸員)
- 芦田彩葵  
Aki Ashida (熊本市現代美術館学芸員)
- 大岩みゆき  
Miyuki Oiwa (熊本市現代美術館学芸アシスタント)
- 藤本真帆  
Maho Fujimoto (熊本市現代美術館学芸アシスタント)
- 高橋知江  
Chie Takahashi (熊本市現代美術館学芸アシスタント)
- 濱川倫子  
Noriko Hamakawa (熊本市現代美術館学芸アシスタント)

# 2012年度の展覧会のご案内 「予定」

## CAMK EXHIBITION SCHEDULE IN 2012

**CAMK**  
**10**<sup>th</sup>

熊本市現代美術館は  
2012年10月12日、  
開館10周年を迎えます。

2012年4月7日(土)～6月17日(日)

### 画業40周年記念 葉祥明展—地平線の彼方へ—

Yoh Shomei—Beyond the Horizon—

熊本市出身の絵本作家、葉祥明(よう・しょうめい)の画業40周年を記念した回顧展。デビュー  
当時から現在までを振り返り、影響を受けた出来事や出会いを紐解きながら、観る者の想像力  
を刺激し、感受性に問いかける独特の画風が生まれるに至った経緯を、未発表の作品と最新作  
を交えてご紹介します。



葉祥明《熊本城》2004年、北鎌倉葉祥明美術館所蔵

2012年6月30日(土)～9月17日(月・祝)

### 篠山紀信展 写真力 THE PEOPLE by KISHIN

THE PEOPLE by KISHIN SHASHIN-RYOKU

写真家・篠山紀信(しのやま・きしん)の写真家生活50周年を記念した、国内では初になる大回顧展。常に  
「今」を感じ、時代を切り拓いてきた篠山が撮り続ける人々「People」が会場を埋め尽くします。時代を象徴  
してきた人々のイメージを通じて、時代を、そして己を思い起こさせる「写真の力」を改めて問う、ドラマ  
ティックな展覧会です。また、ギャラリーⅢでは、同時開催として、東日本大震災の篠山が撮影した無人の  
風景写真を展示します。



篠山紀信「AKB48」

2012年9月29日(土)～12月9日(日)

### 生きる場所 ボーダーレスの空へ

Sky over my head

自己の存在、国や文化による制約や自由、隔たりなど、そ  
こにある境界を示し、その境界を越えたつながりや共感  
を生みだす表現を紹介する国際的な現代美術展です。

出品作家：栗林隆、塩田千春、米田知子、照屋勇賢、ガオ・シーチャン(高  
世強)、ワン・ホンカイ(王虹凱)、ニナ・フィッシャー&マロアン・エル・  
サニ、マリーナ・アブラモヴィッチ



塩田千春《From where we come and what we are》  
2011年、la maison rouge, Paris, photo by Sunhi Mang

2012年12月22日(土)～

2013年1月13日(日)

### 第24回熊本市市民美術展 熊本アートパレード

Art Exhibition For The Citizen  
KUMAMOTO ART PARADE vol.24

15歳以上の熊本市在住・在勤・在学者・熊本  
市出身者なら誰でも無審査で作品を出品する  
ことができる公募による展覧会です。

2013年1月26日(土)～2013年4月14日(日)

### 奈良美智:君や 僕に ちょっと似ている

NARA Yoshitomo: a bit like you and me...

画家・彫刻家として、若い世代を中心に絶大な人気を誇る 奈良美智(なら・よしと  
も)の個展。

創作の原点に立ち返り、絵画やブロンズ彫刻などといった古典的な手法を用いなが  
らも、あらたな世界観を感じさせる新作の数々を展示いたします。新作のみの個展  
は、西日本・九州初です。



新作制作中の作業風景